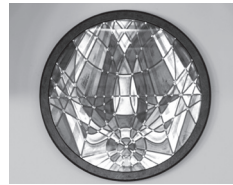


カトリック山形教会報 8

かすみ

2012.8.15



カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>

聖母の被昇天特別号

山形教会の「ルルドのマリア」

米沢出身の彫刻家 桜井祐一の知られざる名作

2003年8月15日に発行された山形カトリック教会報8月号で、「山形教会のルルドのマリア」を特集記事で取り上げたことがありました。それから9年が経ち、その間に、新たに山形教会の共同体になられた方にも、ルルドのマリア像の由来を知っていただきたく、聖母の被昇天の日に合わせて、当時の記事から抜粋して掲載いたします。(2面は聖母被昇天によせて寄稿していただきました。)

新聞が注目したマリア像

1955(昭和30)年12月4日～7日、院展同人や日展特選に輝いた山形県出身作家、我妻碧宇(米沢)、今野忠一(豊栄村)、福王寺法林(米沢)、菅野矢一(山形)、桜井浜江(山形)、桜井祐一(米沢)、佐藤助雄(山形)ら7氏の受賞記念美術展が山形市中央公民館で開かれた。新聞は「わが国美術界の第一線を行く作品が一堂に会した」とうたったが、このうち特別出品された日本美術院同人桜井祐一氏(41歳)の作品「ルルドのマリア」が話題になった。

朝日新聞(昭和30年12月7日付山形版)はこのマリア像に注目、写真入りで大きく取り上げた。

マリア像の発注者は山形カトリック教会のデスペルベン神父だった。同神父は「本当の信仰のために、マリア様の像は芸術的にもすばらしいものがほしかった。ルルドのマリア百年祭の前に立派にでき上がって本当にうれしい」と、制作依頼の理由などを語っている。桜井氏が要請を受けてから1年3か月ぶりに完成したとあるから、発注は昭和29年の夏か、それ以前ということになる。

写実的だが通俗ではない

新聞は97年前(1858年)の2月11日に始まるルルドの出来事(聖母マリアのご出現)にも触れている。当然、桜井氏にはもっと詳しい話が伝えられていたはずである。とりわけ3月25日の第7回目のご出現でベルナデッタが見た気高いマリアの幻影と、そのお告げの言葉は桜井作品の全体をつくり出すイメージの中心となるものであった。

すなわち——マリア様は洞窟のバラの上に立って、両手を合わせ、天を仰いで、「私は汚れない宿りであります」とおっしゃいました——という、その姿を表現したものである。

二尺四寸(約72センチ)、桜井氏制作のルルドのマリア像は、実際のルルドの聖母像より、お顔が若干上向きに作られ、合掌した手にはふくらみがあって、その位置も少し高い。立った姿勢は直立せずに左膝を外に折り曲げ、腰から足元に向かってやや



「ルルドのマリア」を完成させた桜井祐一氏(右)と、作品を依頼したデスペルベン神父

斜めに流れるような衣の曲線が印象的。桜井マリアは生き生きとして若々しく、かつ謙遜である。写実的でありながら決して通俗的ではない。

淡い卵色に水色の帯だった

佐藤照子さんによれば、ルルドのマリア像は初め「淡い卵色で包まれ水色の帯だったと思う」とのことである。佐藤さんに尋ねたのは、佐藤さんのお母さんの日野つねさんが幼稚園とルルドの洞窟建設に直接かかわっておられ、特に洞窟については東京の各地を回って調査されているからである。日野つねさんは洞窟建設の経緯を次のように述べておられる。

「昭和33年のある日、デスペルベン、プッシュェ両神父様がおっしゃいました。今年マリア様がベルナデッタにお現れになってから百年になるので、方々の教会でルルドの洞窟をつくっているが山形教会でも造ったらどうか、と。飾ってあったブロンズのマリア像を指さして、これは大変よくできたご像だから、これを使ってみたら、と、ご秘蔵のご像の提供を約して下さいました。」

愛こそ第一のもの——桜井氏

桜井祐一論を書かれた佐藤繁さんは「桜井の彫刻精神」の中で、桜井氏が晩年の個展によせた次の言葉を引用されている。宗教や哲学に深い関心をもった時期があった。20歳にみたぬころである。もとより深く理解することなどできようはずもないが「愛」こそ第一のものと思った。現在に至るまでの数々の病で生死の境を彷徨した苦しみのなかから「生命」の尊さが身に沁みていた。肉眼でかろうじて見えるほどの小さな虫や芽生えばかりの雑草にも、自分と同じ共同体の生命を感じる。生命感のないところに芸術はなく、愛なきところにも芸術はない。



1958(昭和33)年5月11日、ブッシュ神父によって祝別された山形教会のルルドとシャルトルのマスール

聖母被昇天によせて

つよ 「清らかな勁さ」

マリア・レテチエ 阿部 康子

「お言葉どおり、この身に成りますように」と天使ガブリエルを通して神に答えたマリア様のことばからは、清らかな勁さを感じます。このシンプルで勁い信頼に満ちたことばはどこからくるのでしょうか。試練を与えられた時も黙って神の前に跪き、苦しみや悲しみの中にあっても、神のみ旨に希望と愛を見出して生きるマリア様。その姿は、日々、私の生き方への問いかけでもあり、促しでもあります。

私がこれからも、喜んで「なれかし」と答えられますように。マリア様に取り次ぎを願い、主に賛美と祈りを捧げながら歩ませていただけますように…。

私にとってのマリア様

小さき花のテレジア 小川 和子

マリアさまの心 それは青空
わたしたちを包む広い青空

マリアさまの心 それは樫の木
わたしたちを守る強い樫の木

マリアさまの心 それは鶯

わたしたちと歌う森の鶯

マリアさまの心 それは山百合
わたしたちも欲しい白い山百合

マリアさまの心 それはサファイヤ
わたしたちを飾る光るサファイヤ

わたしにとってのマリアさまは「空気」のような存在であり、いつも私と共におられる。

聖母のご保護のもとに

フランチェスカ 菊池 あき

8月15日は聖母被昇天の日です。私達は何か願うことがあれば、御子イエス・キリストに直接うちあけるのではなく、その母聖母マリアと一緒に祈るように勧められています。

聖母はイエス・キリストを産み育て、苦難の時も傍にいて、十字架でご死去された時も決して倒れず立っておられた方です。並々ならぬ信頼をもって、共に救いのご計画に参加された方なので、私達は一人で祈るよりも、マリア様のご功德にすがって、自分達の願いを申し述べるのです。

では、具体的に生活の中でどうしたらよいのでしょうか。まず、朝起きたらす

ぐに聖母のご保護を願って、今日一日が無事であるようロザリオ一連を捧げます。心に思うことを、すべてマリア様にうちあけ、イエス様の足元に一緒に注ぎ出し、御導きをとりついでてもらいます。家族のこと、友人のこと、近所の人々のこと、恩人のこと、さらには、自分にとって理解に苦しむことを言ったり行ったりする人のことも、お願いします。

夜、床に入って今日一日を心静かにふり返り、出来事の中で、または、出会った人によって気づいたこと・嬉しかったこと・重く心にのしかかることなど、マリア様と一緒に思い出し、感謝したり、改めてよろしくお願ひしたりし、眠りに就きます。

特に亡くなった方の救霊のために、毎朝ロザリオ一連ずつ、40日間捧げることは、必ず大きな力となって、悲しんでいる家族の慰めとなることでしょう。

神様の救いの御業は、今もいきいきと働き続けています。私達も、聖母マリアのみ手にすがって、日々の生活を捧げていくなれば、きっと大きな宝を天に積むことになること確信し、信仰生活を自分の足元から確かなものとしてゆくことができるのです。

私にとってのマリア様

スコラスチカ 小笠原 明子

マリア様は、これまでも一緒に祈りながら子育てをし、仕事を通して、いつもやさしく見守っていただきました。

これからも、理想の女性、母親と仰ぎみて信仰生活を共にして行きたいと思っております。

私にとってのマリア様

洗礼者ヨハネ 平尾 和彦

私は、毎日のようにマリア様の名をとなえる連願で、その功德をよく味わっています。「神の母聖マリア、母の保護の聖人、病人の回復、天上の看護婦なるマリア様、麗しきバラのマリア様、慈しみ深い聖母、聖霊の御座なる聖母を賛美します。私の今日一日をお捧げいたします。」

今年、ちょうど灰の水曜日から入院することになったが、淋しさや孤独感もなく過ごせたのは、皆様のお祈りとマリア様の潔きご保護のお陰だったと思います。